

# 学校研究課題

## 1. 研究主題

自ら目標をもち、学び合う子どもの育成  
～論理的思考力・表現力を高める指導方法の工夫～

## 2. 主題設定の理由

本校は、令和元年度から「自ら目標をもち、学び合う子どもの育成～論理的思考力・表現力を高める国語科指導方法の工夫～」を研究主題とし、国語科において研究を重ねてきた（「表現力」は昨年度より）。本校では、「論理的思考力」について、「知識・情報を関係づけて整理し、それを根拠・理由として、筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりする力」と捉えている。さらに、学習指導要領総則第1章総説に記されている、「(予測困難な時代において)、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況の変化の中で目的を再構築することができるようにする」ためにも「論理的思考力」は必要不可欠な力であると共通理解している。その認識のもと、「読み」に関わる指導事項の共有及び系統性を重視した国語科の授業づくり、学習課題の工夫、「読む」ための「書く」活動、考えの共有化、次につながるまとめとふり返り、さらにその根本となる基礎学力の定着に取り組んできた。その結果、文章を正確に読み解く力、自分の考えを分かりやすく表現する力が向上してきている。児童の姿からは、日々の取り組みの成果を実感できる部分も多い。

一方、全国学力・学習状況調査、県到達度調査の結果からは、R1年度と比べると「読む」領域において向上が見られる部分もあるが、依然として課題も残されていることが明らかとなった。全国学力・学習状況調査では、「読む」の領域において、全国より0.7ポイント上回っている。また、(県)到達度調査では、4年生で3ポイント上回ったが、5年生では9ポイント下回った(県平均との比較)。学年における児童の実態の差はあるが、学校全体としては十分に力がついているとは言い難い。さらに、問題別に分析をしていくと、どの学年にも共通して課題として挙げられているのが、以下の点である。

- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけること。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。
- ・段落相互の関係を考えて文章を読むこと。

これらのことから考察すると、物事を論理的に思考し、表現することにはまだまだ課題があると言える。先述した成果は断片的であり、その授業の中での学習課題は解決することができても、その授業で身に付けた知識や技能を自分のものにし、汎用的に活用できる力まで至っていないという実態が浮き彫りになってくる。そこで、これまでの取り組みについて省察し、児童に確かな力と

して「論理的思考力・表現力」を身につけるために、さらなる授業力向上、授業改善を図っていくことが必要不可欠である。

また、「論理的思考力・表現力」は国語科のみで働かせる力ではなく、全教科においても必要な力、さらに生活の上でも欠かせない力である。「学習指導要領解説総則編第3章教育課程の編成及び実施第1節小学校教育の基本と教育課程の役割3育成を目指す資質・能力（第1章第1の3）」において、以下の記述がある。

児童がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童が「何ができるようになるか」を併せて重視する必要がある、児童に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる。

さらに、「同章第2節教育課程の編成2教科横断的な視点に立った資質・能力」では、3点が述べられているが、うち2点及び指導に当たっての重要事項を以下に示す。

平成28年の中央教育審議会答申では、数多く論じられている資質・能力を以下のように大別している。

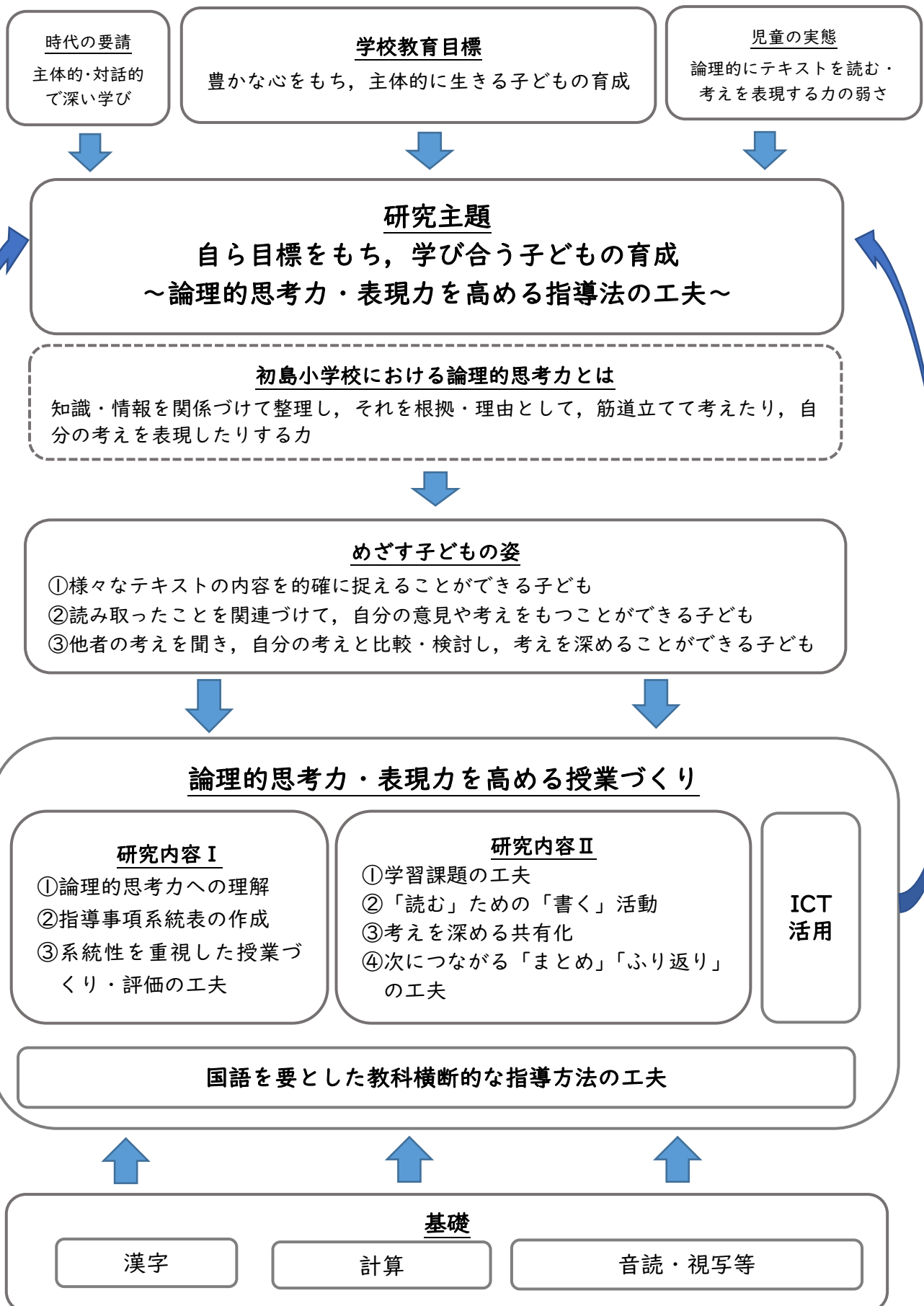
・例えば国語力、数学力などのように、伝統的な教科等の枠組みを踏まえながら、社会の中で活用できる力としての在り方について論じているもの。

・例えば、言語能力や情報活用能力などのように、教科を超えた全ての学習の基盤として育まれ活用される力について論じているもの。

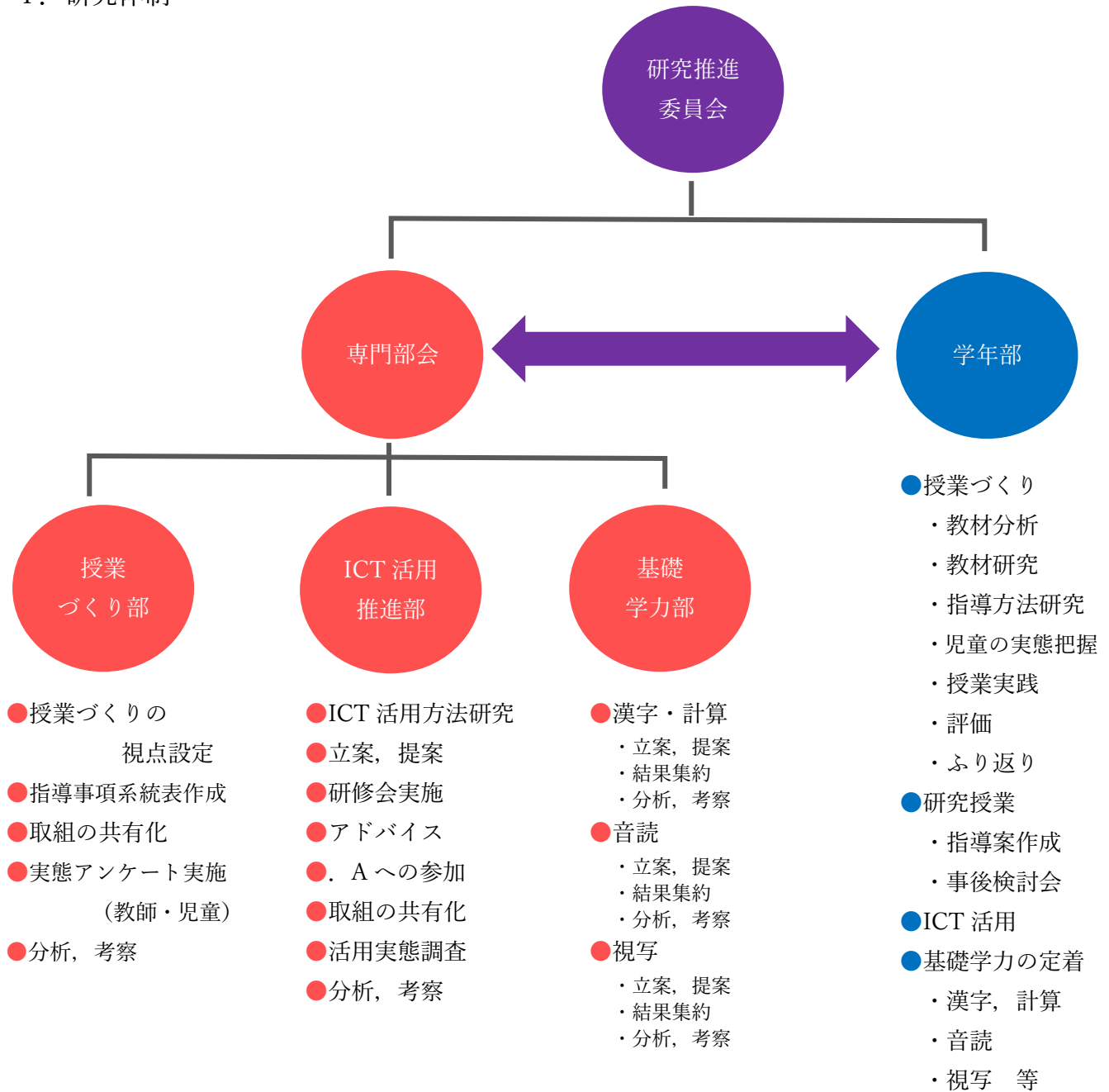
指導に当たっては、教科等ごとの枠の中だけでなく、教育課程全体を通じて目指す教育目標の実現に向けた各教科の位置付けを踏まえ、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化したり、他の教科等における指導との関連付けを図りながら、幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育むことを目指したりしていくことも重要となる。

以上のことを踏まえた上で、今年度は、研究主題を「自ら目標をもち、学び合う子どもの育成～論理的思考力・表現力を高める指導方法の工夫～」とする。主題そのものは継続して「自ら目標をもち、学び合う子どもの育成」とし、学習指導要領で重視されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を柱とし、将来に向けて他者と協働しながら課題を解決し、情報を活用して新たな価値を創造できる力を養っていくことを目指す。副主題「～論理的思考力・表現力を高める指導方法の工夫～」は、学習指導要領及び前述した児童の実態に基づき、国語科を要としながら、教科横断的な視点をもって「論理的思考力・表現力」を高める指導方法について研究していくものとする。そうした中で「自ら目標をもち、学び合う子ども」の具現化を図るべく、本主題を設定した。

### 3. 研究構想図



#### 4. 研究体制



● 研究授業について

- ・年間一人1回以上実施
- ・指導案は全員細案を書く。
- ・指導案事前検討会は基本的になし。提案型の授業とする。

● 事後検討会について

- ・年間3回は全員参加でグループ協議
- 外部講師より助言を受ける。  
(学期毎に1回ずつ低・中・高各1名)
- ・その他は学年部単位で実施